

## ベトナム 日本式周産期医療サービス サービスの提供者から見た受容性

**医療スタッフ**は、日本式サービスの質の高さを認めているものの、現段階では**サービスの供給**そのものには決して**積極的ではない**。健診の回数が4倍-5倍程度であることによる多忙さに加え、ベトナム式では提供することのないヨガや栄養指導など、一部では実際に運営が難しかったという意見もあり、その原因として、日本の担当者による説明が理解できなかったという声も上がっている。

また、自国の方式に対する若干の臆目という部分はあるにしても、一部の医療スタッフには、日本式もベトナム式もサービスの品質は同じであるという考えも見受けられた。**医療スタッフ**は、実際には我々が考えているほどの、**サービスや品質における両国間の差異を感じていない**部分も、本調査を通じて感じられた。実際に、「ベトナム人はベトナム式を選ぶだろう」という、非常に単純な考えを持つ医療スタッフの回答も見受けられた。仮に、ベトナム人だからベトナム式を選択するというのが大きな理由になるのであれば、今回のような100%の支持は得られないであろう。

全ての患者から例外なく受け入れられた日本式サービスであるが、**サービス提供側の医療スタッフには、「認められているものの、まだ完全には受け入れられていない」**存在であるようにも思える。現在もなお、前近代的な伝統医療が存在しつつ、健診はおろか予約も無い日帰り分娩が日常化している文化の中では、日本式サービスは、妊婦であれば誰にとっても「受けるには素晴らしい」サービスであるが、**医療関係者にとっては「提供するには現段階では厳しい」サービス**なのである。

(詳細調査結果は省略)